

カツオの水揚げ 15年連続日本一を記録した気仙沼港
(写真は昨年9月、気仙沼市魚市場でのカツオ水揚げ風景)



気仙沼の奇跡 カツオ水揚げ 15年連続日本一

昨年6月28日の早朝。いまだ津波の傷痕が残る宮城県気仙沼市魚市場は、震災後初めてのカツオの水揚げを待ち望む仲買人らで活気づいていた。

朝まだき三陸の海から漁船が入港すると「待ってたぞ！」と手を振り、笑顔で迎える漁業関係者たち。朝日に照らされ、キラキラと輝く「復興のシンボル」は、

海の男たちとの共戦が実る

「最高だよ！ 公明は」

この日、市民の食卓にも笑顔の花を咲かせた。

「まさかあんなに早く水揚げができるなんて。本当に奇跡だよ。太田さんには感謝してもきれない」。

しみじみと語る気仙沼漁業協同組合の村田次男専務は、太田昭宏全国代表者会

議長から公明党と歩んだ市場再開までの道のりを振り返った。

震災から9日後の3月20日。同組合の佐藤亮輔組合長は、壊滅状態の市場に組合員らを集め「6月から市

場を再開しよう！」と呼び掛けた。同月にはカツオ漁の最盛期。△そうだ！カツオで復興の烽火を上げるんだ。△瞬時に「海の男」たちの決意が燃え上がった。

翌日から敷地内のがれきの撤去に全力を挙げる一

訴えを全身で受け止める太田議長。帰京後、農林水産相や水産庁長官に財政支援を直談判するなど、矢継ぎ早に手を打った。

後日、佐藤組合長らのもとを訪れた農水相や長官らは働き掛けて、間もなく燃

油とエサが市場に集められた。水は市場に残った製氷施設を修理して生産。約70%

沈下した岸壁の一部もかさ上げし、6月23日には市場再開にこぎつけた。

「公明党のスピード感には驚いたよ。何より俺たちの苦勞をわが

苦勞として感じ取ってくれたことが最高にうれしかった」と村田専

務は喜びを隠さない。同市は昨年末、絶望視された生

鮮カツオの水揚げ日本一の

座に15年連続で輝いた。皆が心を一つにしたからこそ、不可能を可能にできた」と漁業関係者らは胸を張る。

とはいえ、生鮮カツオの取扱量は前年比36%にまで下落。冷凍施設や加工場、製氷施設などの水産施設は軒並み流され、漁船の大半を消失、港周辺の地盤も1

以近く沈下したままだ。

「今年の水揚げは例年に一歩でも近づきたい」と願う村田専務。市は沿岸部のかさ上げなど、国のインフラ整備事業を活用できるよう漁港区域の拡大に向け検討を進める。公明党も太田議長と遠山清彦衆議院議員らが国に一層の支援を求めるなど、水産業の再建へ全力を注ぐ。

太田議長は語る。「現場には匂いがあり、空気がある。問題解決への急所がある」と。気仙沼市をはじめ、被災地が復興するその日まで「大衆とともに」歩み続ける公明党の闘いは、いや増して加速する。

方、市場再建への工事に着手。しかし、肝心の冷凍用水や船の燃油、エサのイワシが手に入らない。視察に訪れる他党の国会議員に要望しても打開できずにいた。5月も迫り、焦りばかりが募る。

そんな中、公明党の村上進市議や上田勇党神奈川県本部代表らとともに「苦悩する現場」へと足を運び、希望の火を灯したのが太田議長だった。「なんとか水と燃油、エサが手に入れば」との佐藤組合長らの切実な

（左から2人目）らと壊滅的な被害を受けた気仙沼港を視察する太田議長（右端）ら

昨年5月1日

